

くつなぐ教室コラム> 「学び・遊び・つなぐ」プロジェクト

タイと日本の文化の相違点

山根 聡

1 はじめに

私は、平成29年4月から令和2年3月までバンコク日本人学校で勤務していました。初めての海外生活で感じた日本とタイの文化の違いや教育現場で感じたことをお伝えしたいと思います。

2 タイ人の優しさ

皆さんは、「タイ」と聞いてどんな印象を持つでしょうか。美味しいタイ料理、「微笑みの国」と言われる温かい国民性、ワット・アルンやワット・ポーなど寺院、バンコクやプーケットをはじめとする観光地など日本人にとっては大変身近にあり、かつ人気の高い国だと思います。そんなタイで暮らし感じたことは、タイの人々の優しさです。特に、子供に対しての温かさを感じる事が多くありました。

ある日、家族で出かけようと電車に乗った時です。タイでの生活が始まったばかりで電車に乗るのも緊張していました。さらに、ホームはかなり混雑しています。日本と同じように列に並んで何とか乗車することができましたが、車内はかなり混雑しており小さい子供を抱っこし、もう一人の子供と手をつないではぐれないようにするのがやっとの状態でした。すると、座席に座っていたタイの方がずっと立ち上がり、手招きをしてくれるのです。しかも、一人ではなく、何人の方が席を譲ってくれようと立ち上がっていました。遠慮していると、子供たちの手を優しく引き、座らせてくれるのです。お礼を言うと優しく微笑んでその場に立っていました。どこの国にも親切な方はいるのだなと感じました。しかし、このような体験が一度や二度ではなかったのです。子供を連れて電車に乗るたびに、タイ人の方は席を譲ってくれようとするのです。日本でも、席を譲ってもらったり、譲ったりしたこともあれば、そのような場面を見たことはあります。しかし、日本で体験した回数をはるかに超えていて驚きました。

同じように、家族で出かけているとき、道路を渡ろうと歩道で待っているときの事です。タイは、日本と違って道路は車両が優先です。車だけでなく、バイクの数が非常に多いので、道路を渡るには、少し危険が伴うのではないかと感じていました。

また、日本のように横断歩道が数多くあるわけではありません。バンコクでも大きな交差点にしかなく、車が来ないときを見計らって渡るのが普通でした。しかし、小さい子供を連れて道路を渡ろうと左右を見渡していると、バイクや車が減速して止まってくれるのです。中には、バイクの運転手が手を差し出して、他のバイクや車を止めて私たちが渡らせてくれる時もありました。日本では経験したことのない出来事だったのでとても驚くとともに、タイ人の優しさを感じました。

このような出来事について日本人学校に勤務するタイ語の先生に話をすると「タイ人はとても子供を大切にし、かわいがるから当然ですよ。」と教えられました。タイ人の心の豊かさを感じるとともに、日本の子供たちにも伝えていきたいと感じました。



3 授業研究の違い

バンコク日本人学校勤務中「バンコク日本人学校を拠点として、我が国が120年以上に渡り実践してきた授業研究を日本型教師教育として、タイ現地校の教師の協働システム構築の一助を担うと共に、海外の目を通して授業研究を客観的に見つめ直し、その特徴・価値の充実を図る。」というねらいのもと Edu-Port（日泰交流授業研究会）で研究授業を行いました。私の授業（2年生算数科「かけ算1」）及び授業後の研究協議会をタイの政府関係者や教育関係者、現地の先生方に参観していただきました。全て同時通訳で行い、参観していただいた方に多くの感想や意見をいただきました。

<参観していただいたタイ人の感想>

- ・単元の導入の仕方が、タイのやり方と違いました。たし算から始めて、かけ算を教えたことが良いと思います。もう一つの違いは、×（かける）の書き順を教えていました。
- ・先生が答えをすぐ言わずに、先に児童に考えさせていました。
- ・日本の学習は、一つの答えよりも、いろいろな考え方を大切にするのだなと思いました。一つの考え方で正しい答えがでていても、他の解決方法を考えられる児童がいたので、すばらしいと思いました。
- ・授業をしていることは、タイの学校と同じですが、雰囲気は違います。児童は、いろいろな考え方を聞いて、自分の言葉でまとめることができていると思います。
- ・研究協議会のときに、なぜ、違う学年の先生方が集まって話し合うのでしょうか。同じ学年の先生方で集まって、話し合っはいけないのでしょうか？

タイの政府関係者や教育関係者に授業や研究協議会を見ていただいて率直な感想が聞けたことはうれしく思いました。タイでは、他の教員の授業を見たりすることは少なく、まして教員同士が授業について同じテーマで議論し、高め合うことはしないこと初めて知りました。日本では当然のように行っている授業研究会も国や文化が変われば全く違うのだと感じました。また、授業後に知ったことだが、日泰交流授業の授業実践を見学されたタイの先生が日本型の問題解決学習に取り組んでいる話を聞きました。自分の授業が一つのきっかけになったと思うと、とてもうれしく思います。



<授業参観の様子>



<研究協議会の様子>

4 おわりに

3年間バンコク日本人学校に勤務し、タイで生活をさせていただいたことで様々な経験をすることができました。国や文化が違えば考え方や行動が違うことを実際に感じることで、物事を柔軟にとらえることや何事にもチャレンジすることの大切さを感じることができました。この3年間で得たものをこれからの生活や仕事にも活かしていきたいです。

山根 聡（鳥取県 若桜町立若桜学園小学校教諭）※「つなぐ教室」講師